

金澤醫學會雜誌第三卷第十七號

明治廿四年二月十五日發兌

論說及實驗

◎破傷風ノ一實驗

會員 才紀甚太郎

左の病床日誌は才紀甚太郎氏より贈られたる者にして該患者は昨年十二月十四日或醫の依頼により余も行きて診斷し全く破傷風なる事を認めたり幸ひ才紀氏も來合せられたれば治療の事は同氏に任せ患者受傷の際創面に貼したりと云ふ菲、欸冬及び其發生部の土塊を持ち歸り醫學部助教授谷中正勝氏に託し兎五頭に付き皮下及坐骨神經鞘等に注入試驗をなしぬ去れど其成績は全く陰性なりき抑も該病は余か是迄の經驗にては當地方には甚た少なさを覺ふ又た會員

中田邊庸氏の如きも數十年來の開業中僅々二三名を實驗せりと話されたり金澤病院にても既往八九年間には一名をもなかりし、されは此報告は大に興味ある者なれば本會雜誌へ掲けられむ事を望む

(醫學士 木村孝藏)

石川縣金澤市片町六拾七番地住

硝子商 金平伊三郎(齡四十五才)

天賦強壯ニシテ生來曾テ格著ノ疾患ニ罹リシヲナシ只幼時痘瘡麻疹ヲ經過スルヲ記スルノミ父ハ今ヲ去ル十二年前即チ患者三十三才ノ時腸胃病ヲ以テ斃レ母ハ爾后七年ヲ經テ老衰症ヲ以テ逝ク兄弟三人皆健全ニ生存ス血族中遺傳性病ノ徵ス可キナシ

明治廿三年十一月卅日自家ノ營業ニ從事中過テ硝子ノ

(1)

(論說及實驗)

金澤醫學會雜誌第三卷第十七號

(四十七)

碎片ヲ以テ右足蹠面ニ一センチメートル半計ノ皮膚及皮下ノ切創ヲ受ケ出血淋漓トシテ容易ニ止血セサルカ如キヲ以テ不取敢庭園ニ培養シアル韭及款冬ノ葉ヲ取リ揉碎シテ創傷面ニ貼シ布片ヲ以テ其上ヲ縛縛シテ放棄シ更ニ意ニ介セサリシカ時日ヲ累ヌルニ從ヒ該創傷膿潰ヲ催起シ稀薄膿汁ヲ漏出シ漸次疼痛ヲ増進ス此ニ於テ初メテ或醫ニ診治ヲ委テ創面洗滌等ノ治療ヲ受ク然ルニ十二月十二日ノ朝ニ至リ俄然下顎運動ニ際シ疼痛ヲ感シ咀嚼ニ障害ヲ覺ヘリ次テ強剛シテ開口シ克ハサルニ至ル加之漸々病勢増劇シ同日午后ニ至リ項部背部及腹壁ニ攣縮ヲ來タシ疼痛緊急堪ヘ難シ依リテ余ニ診ヲ乞フ

十二月十二日午後三時往診スルニ患者体格營養共ニ中等ニシテ腹位置ヲ取リテ臥靜シ更ニ他ノ位置ニ轉臥スルヲ得ス反張牙關緊急ヲ致シ顔貌一種異樣ヲ呈シ頻リ

ニ疼痛苦惱ヲ叫號ス脈ハ九十至ヲ算シ体温三十八度五分、精神ニハ異常ヲ來タサス痙攣休歇時ニ於テハ言語稍澁滯スルモ用ヲ辨スルニハ妨ナシ頭筋背筋腹筋就中外斜腹筋等ハ皆痙攣強剛ス腹壁ハ按スルニ恰カ木板ニ觸ル、カ如シ其攣急ノ狀ハ發作性ニシテ二十秒時乃至三十秒時間強直シ次テ五分時乃至十分時間休歇シテ反復ス而ノ攣急休歇時ト雖モ僅ニ指端ヲ身体殊ニ腹壁ニ觸接スルキハ忽チ攣急ス其發作ニ當テハ苦惱見ニ忍ヒス冷汗淋漓額ヲ洗フ又創傷ヲ檢スルニ創口隆開シ僅ニ遲鈍性ノ肉芽ト皮下結締織ノ死壞セルモノヲ以テ被ヒ少ク稀薄ナル膿ヲ滲漏スルヲ見ルノミニシテ疼痛ハ更ニ訴ヘス以上ノ症狀ニヨリ「テタヌス」ト診斷ス

十二日 處方抱水クロラール三、〇ヲ適宜ノ方劑トシ六時間ニ三分服セシム創面ハ銳ヒニテ搔爬シ二%石炭酸水ヲ以テ洗ヒ硼酸軟膏ヲ貼ス

十三日 諸症依然依リテ抱水クロラール三、〇頓服發

病以來初メテ熟睡三時間余ニ至ル醒覺后患者
漸ク輕快ヲ告ク然レモ暫時時間ノミナリキ方抱

水クロラール三、〇毎三時三回ニ分服食餌ハ

牛乳一合雞卵三個肉羹汁(雞肉五十目ヲ以テ製スナ)命ス

十四日 昨日熟睡醒覺后安眠ヲ得ス其他大同小異アル

ノミ依リテ抱水クロラール三、〇頓服漸ク三

時間余安眠ス方抱水クロラールノ量ヲ六、〇

トシ十八時間ニ分服食餌ハ前日ニ全シ

十五日 諸症ニ大ニ緩解變急發作其數ヲ減シ且發作時

少ク短縮ス初病以來初メテ利尿快通其色煉瓦

様ニシテ蛋白質ヲ含有ス處方前方食餌全シ

十六日 異常ナシ大便秘結依テ刺戟浣腸ヲ行フ通利ス

處方抱水クロラール五、〇チ一日ノ量トス

十七日 此日ヨリ臥床ノ位置轉變スルヲ得ル處方等前

方ニ同シ

十八日 全上

十九日 處方前方ニ兼テヒューテル氏ニ從ヒ石炭酸水

ノ皮下ニ注入ヲ施ス即チ三% 石炭酸水ヲ第

十背椎ノ兩側ニ深ク注入スルヲ各一筒

二十日 全上

廿一日 諸症異狀ナシ石炭酸ノ注入ヲ止メ更ニ莫爾比

涅水一、〇皮下ニ注入其他前日來ノ如クス

廿二日 異狀ナシ前同斷

廿三日 朝牛乳飲下ノ際忽焉トシテ嚔下困難ヲ起シテ

飲下スル克ハス呼吸障礙ヲ來シ殆ト窒息セン

トスルニ至ル爾來飲液ヲ取ラントスレハ勿チ

同症ヲ來ス由リテ患者一滴ノ水液モ恐レ嫌厭

スルニ至リ藥液食餌等與フルヲ得ス處方モル

ヒチ水皮下注入抱水クロラール三、〇浣腸ス

(4)

廿四日 全身大ニ疲勞ヲ來タシ脈細數時々呼吸困難人
 事半不省ヲ起ス武蘭地酒皮下注入ヲ施ス數箇
 廿五日 前日ノ諸症増進シ終ニ午前十時鬼籍ニ入ル

◎精虫染色法

會員 飯森益太郎

裁判醫學上精液ノ檢査ハ既ニ姦淫セシヤ否ヤノ疑問ヲ
 判決スルニ必要ナルハ今更吾人ノ喋々ヲ俟タサルナリ
 何トナレハ精液ノ腔内注射ハ既姦ノ貴要ナル一徵候ナ
 レハナリ(英國ノ法律ニハ陰莖ヲ腔内ニ插入セシナ以
 テ既姦ト看做スヘケレト)然リト雖モ通例腔内或ハ其
 近部ヨリ新鮮ナル精液ヲ取り之レヲ檢スルハ實際上極
 メテ稀ニシテ大抵ハ數日若クハ數週ノ後衣帛ニ固着セ
 ル斑點ニ就テ檢査スルコト多シ
 新鮮ナル精液ニ付テ其主眼ナル精虫ヲ檢索スルハ甚タ
 容易ナリト雖モ己ニ乾涸シテ數十日ヲ經タル者ハ檢査

ノ際進入スル異物、精虫ノ破損等ニ由テ大ニ困難ナラ
 シムル者ナリ、余ハ近頃之レヲ避ケ且ツ一目ノ下、瞭然
 タラシメンカ爲メ精虫ヲ種々ノ色素(アニリン色素)ヲ
 以テ染色スルノ方法ヲ考出セリ今其各色素ニ對スル染
 色ノ難易及方法ヲ論スルニ先チ檢査法ノ順序トノ一般
 精虫ノ性狀ヲ述フルモ穴勝無益ノ事ニアラサルベシ
 新ニ排泄セル精液ハ精虫ノ他、精液細胞、多量ノ「レチ
 ヲン」澱粉粒、色素顆粒(殊ニ老人ニ多シ)輸精管ノ葡萄
 狀腺、コーペル氏腺及攝護腺ノ分泌液、精道ノ上皮、淋
 巴細胞、多量ノ物質顆粒ヲ混シ中性或ハ亞爾加里性ノ
 反應ヲ有スル白色粘稠ノ液ニシテ一種ノ臭氣ヲ有シ之
 レヲ空氣中ニ暴露スルモ初メ凝固スルモ暫時ニメ再
 ヒ溶解シ透明トナルフアウクエリン Vauquelin 氏ニ從ヘ
 ハ其凝固物ハ Spermatin ト稱スル者ニメ一種ノ臭氣モ
 之レニ基クト云ヒレーマン Lehmann 氏(Phys. Chemie S.